

今、紀要に追い風が吹いている

京都大学東南アジア地域研究研究所

設楽成実

shitara@cseas.kyoto-u.ac.jp

研究・イノベーション学会第35回年次学術大会 大会実行委員会企画セッション「紀要の魅力と大学の役割」2020.10.31

自己紹介



- ▶ 機関誌『東南アジア研究』『Southeast Asian Studies』のマネージング・エディターを担当、英文誌の創刊準備に携わる

紀要とは？

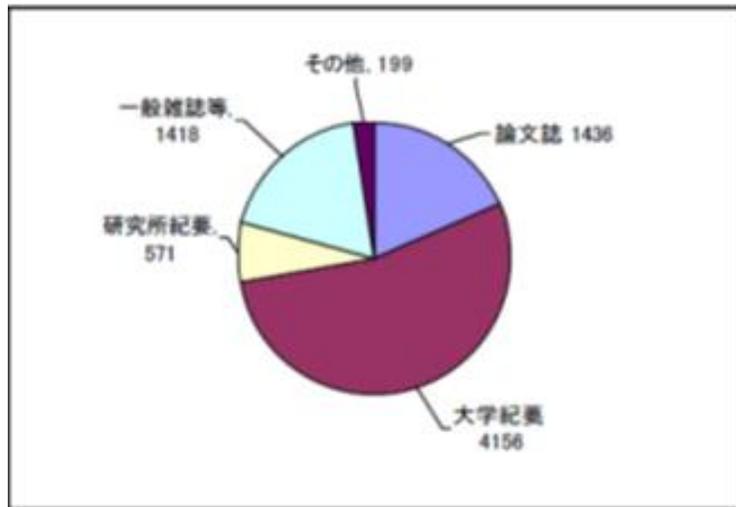


図 1. 人文社会分野の雑誌種別の分布

表 3. 雑誌の分野別、種類別の件数

分野	雑誌数	種別	雑誌数
人文・社会系	7780	論文誌とみられるもの	1436
		大学紀要	4156
		その他	2188
科学技術・医学系	12768	論文誌とみられるもの	3503
		大学紀要	2886
		その他	6379
合計	20548		20548

マイナスの評価

- ▶ 紀要は学位論文を除けば学内の教員であれば殆んど無審査で掲載出来る故、学会誌に比較して**玉石混合の感**が無くもない
鮎澤修. 1976. 「大学刊行物の収集と利用」 『図書館雑誌』 70 (7): 251.
- ▶ 仲間うちだけに配付され、**広く読者の目に触れずに消えていく** 『読売新聞』 1975年6月2日, 朝刊
- ▶ 谷沢永一. 1980. 「アホばか間抜け大学紀要」 『諸君』 12 (6) : 160-173.

菅井紀子. 2013. 「神奈川県立図書館における大学紀要——公共図書館で収集することの意義」
『神奈川県立図書館紀要』 第10号より

- ▶ 1983年の『ファルマシア』（日本薬学会・機関誌）では「大学紀要・研究所年報を考える」というパネル
- ▶ 「誰でも発表できるが誰も読まない紀要」 = 日本の大学の特有の文化
⇒ 「研究しない研究者の温床に」

橘木俊詔. 2015. 『経済学部タチバナキ教授が見たニッポンの大学教授と大学生』

紀要の役割（自由な場）

- ▶ 分野横断的な研究、あるいは既存の研究領域の壁を取り払う研究で、**受け皿となる学会誌が乏しい場合**に公表の場となる

吉田要. 2019. 「紀要の使命」 『日本工業大学研究報告』 49(1):1

- ▶ 固有の役割が、日本型のワーキングペーパーであるという位置づけであるならば、**ノーマルサイエンスにこだわらず執筆可能な場**としてとらえることができる

日置弘一郎. 2017. 「陰謀社会論再び—未発表論文と大学紀要の効用」
『公立鳥取環境大学紀要』 15 : 1-8.

- ▶ 研究者には**自由な発想**が必要であって雑文を書く機会があってもいい。

野村俊明. 2019. 「紀要礼賛」 『日本医科大学基礎科学研究』 48

紀要の役割（多様性・未熟な面白さ・生れ出ようとする生命力）

- ▶ 大会発表論文や紀要はいわば**日本の学問という森に生息する粘菌**である。粘菌が亡びるときには、森も滅びる。玉石混淆の実に雑多な粘菌の森に支えられてこそ、・・・審査者のいるジャーナルが存在するのである。紀要の世界の多様性そしてその豊かさが蔭で日本の心理学を支えているとあってよいだろう。紀要の中には、日本の心理学の**多様性・未熟な面白さ・生れ出ようとする生命力**が粘菌のように摩訶不思議な形で存在している。

麻生武. 2009. 「“良い”論文というものは査読付き学会誌に掲載されるものなのだろうか？」 『心の諸問題論集』 4(1): 62-65



紀要の役割（パラダイムシフトを待つ場）



▶ 奇天烈な論文たちがどういう雑誌に載っているか

・・・そう、「査読が甘い雑誌」である。つまり大学の紀要であつたり、論文誌でも趣味性が高く、コッソリ発行している「コッソリ系雑誌」たちだ。

そのジャンルの流行ではない手法やテーマを扱った論文が、査読の甘い雑誌で、ひそかに時代が変わるのを待ちながら投稿されている場合だ。彼らはパラダイムシフトが起こる時を、ただひたすらに待ち、淡々と己が道を究めているのだ。

サンキュータツオ. 2015. 『ヘンな論文』 KADOKAWA.

紀要の役割（組織内の交流の場）

- ▶ どのような教育、研究に取り組んでいるか、その**組織内で互いに知り合える場**、交流・共同の芽が文字化に生まれやすくなる場

小林悌二. 2014. 「紀要についての一考」
『東北大医学部保健学科紀要』 23(2):47-51.

- ▶ 所属する教員としての立場を全面に出して研究活動を公表できるうえ、同僚教員・職員に、**自分の研究について容易に知ってもらう**こともできる。

吉田要. 2019. 「紀要の使命」 『日本工業大学研究報告』 49(1):1.

紀要の役割（社会に向けた大学の顔）

- ▶ 高岡短期大学における教育研究活動を詳細、かつ幅広く収集し掲載することで、**本学が地域社会からよく見えるよう**に努めた。

西頭徳三. 2004. 「教育環境の激変と『高岡短期大学紀要』の役割」
『高岡短期大学紀要』 19

- ▶ 紀要はその学部の顔であり看板だと私は思うのです。それぞれの教員・研究者は個人営業の店主ですが、その集合体の専門店街にはそれ独自の個性があるはずでず。掲載される論文のテーマ・内容・方法・領域は執筆者によって異なっても、その総体の紀要にはある種の特徴が浮かび上がってくると思います。**紀要は大学あるいは学部のひとつの見識を示すもの**であろうかと思うのです。

重松伸司. 2007. 「創刊の辞 誰に向かって書くのか——二つの紀要から」
『追手門学院大学国際教養学部紀要』 創刊号

紀要の役割

境域研究、新しい研究、若手の研究発表の場

発行機関での教員、職員の交流の場

大学、部局の顔

社会的貢献

紀要への批判

玉石混交、質の疑問視

- 査読制度の導入、審査の厳格化

誰にも読まれない

- 機関リポジトリの拡充等により
読まれる環境は整っている



- ▶ 業績評価に認められない
(分野間の温度差)
- ▶ 投稿数の減少
- ▶ 刊行の形骸化

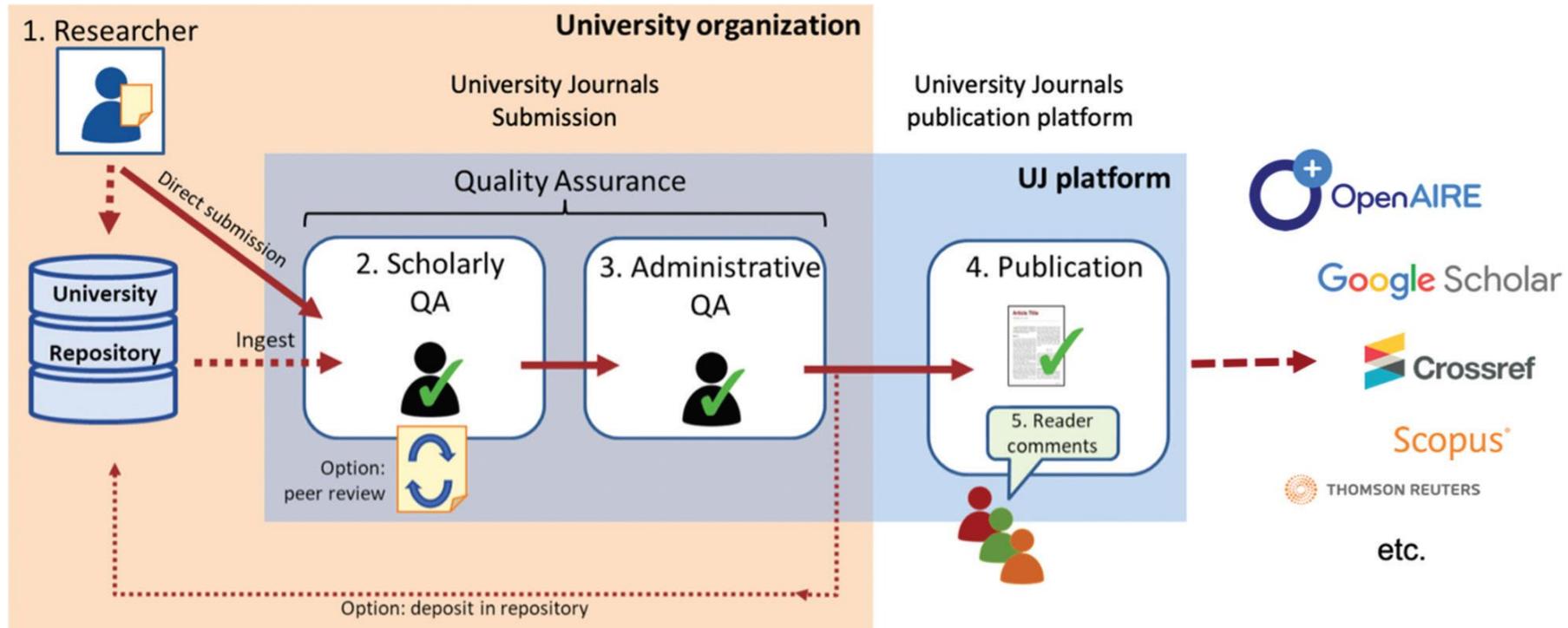
査読や審査の厳格化は諸刃の剣

査読の抱える問題

- ▶ 1 査読にかかるコストと時間
- ▶ 2 査読者による不正行為
- ▶ 3 「質のフィルター」としての問題
- ▶ 4 査読の詐称
- ▶ 5 投稿者による不正
- ▶ 6 問題の更なる背景：研究者とその生産論文の増大

査読制度を維持し続けることができるのか否かは現状、未知数である。

紀要への回帰？ 欧州での新しい試み University Journals



Saskia Woutersen-Windhouver. 2020. "UNIVERSITY JOURNALS: Consolidating Institutional Repositories in a Digital, Free, Open Access Publication Platform for *All* Scholarly Output" *Liber Quarterly* 30.

雑誌の信頼性向上への試み

- ▶ コンテンツごとにどのような審査が行われたか、を表示
- ▶ 雑誌の指針、編集方針を掲載
- ▶ DOAJ (Directory of Open Access Journals)への登録
外部の評価を積極的に得るのも一策

<https://doaj.org/>

質的調査への取組

- ▶ 引用文献のデータ化と公開

紀要の引用状況、質に関する定量調査へ貢献

京都大学図書館機構講演会「オープン・サイテーションと機関リポジトリの展開」2019.5.20

- ▶ J-Stageへの登録も有効では

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja/>

多様な評価の在り方

業績評価として認められるかは意見が分かれる

- ▶ 例えば、オルトメトリックスの活用（岡山大学リポジトリ）など、引用以外の利用情報を集め、**社会での利用、インパクトも前向きに評価**してみては？

e.g.

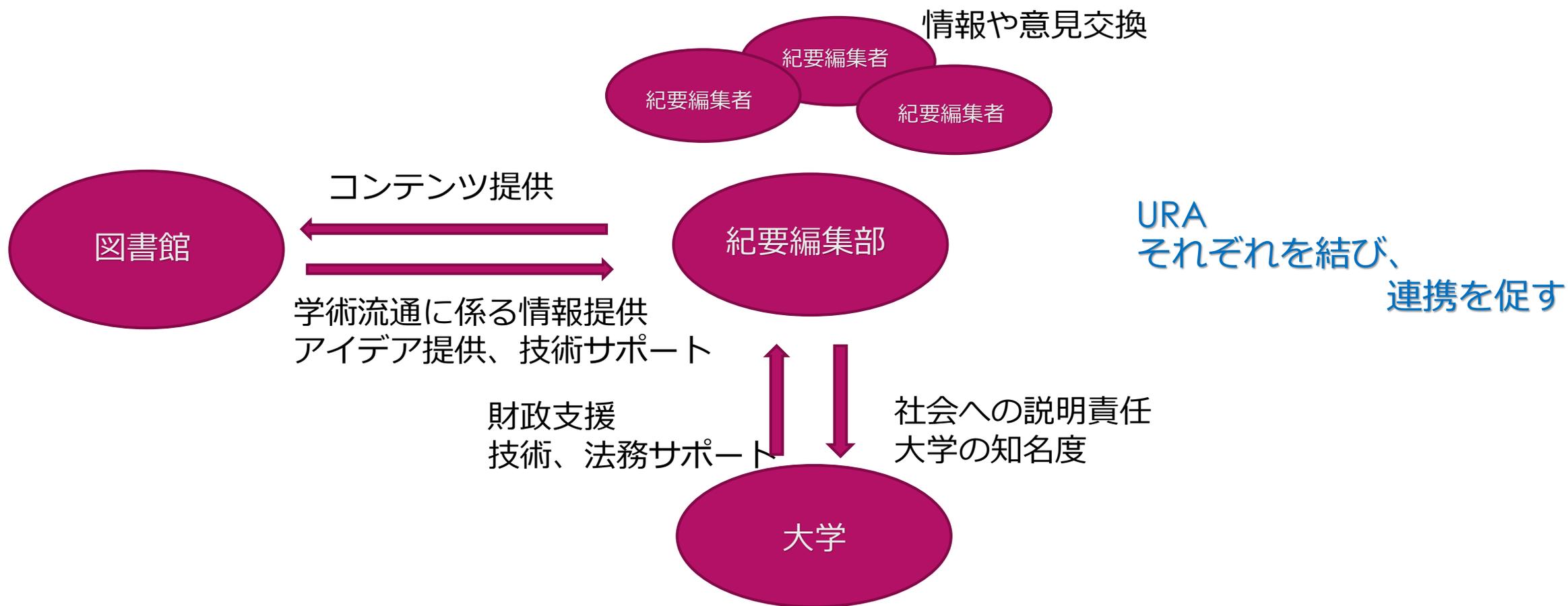
県立図書館での大学紀要の活用事例

- ▶ レファレンスの際に力を発揮
- ▶ その大学が所在している地域の研究論文も多い⇒地域に還元され、地域の活性化に寄与

菅井紀子. 2013. 「神奈川県立図書館における大学紀要：公共図書館で収集することの意義」

『神奈川県立図書館紀要』第10号

大学の役割—学内の連携により紀要をい かす

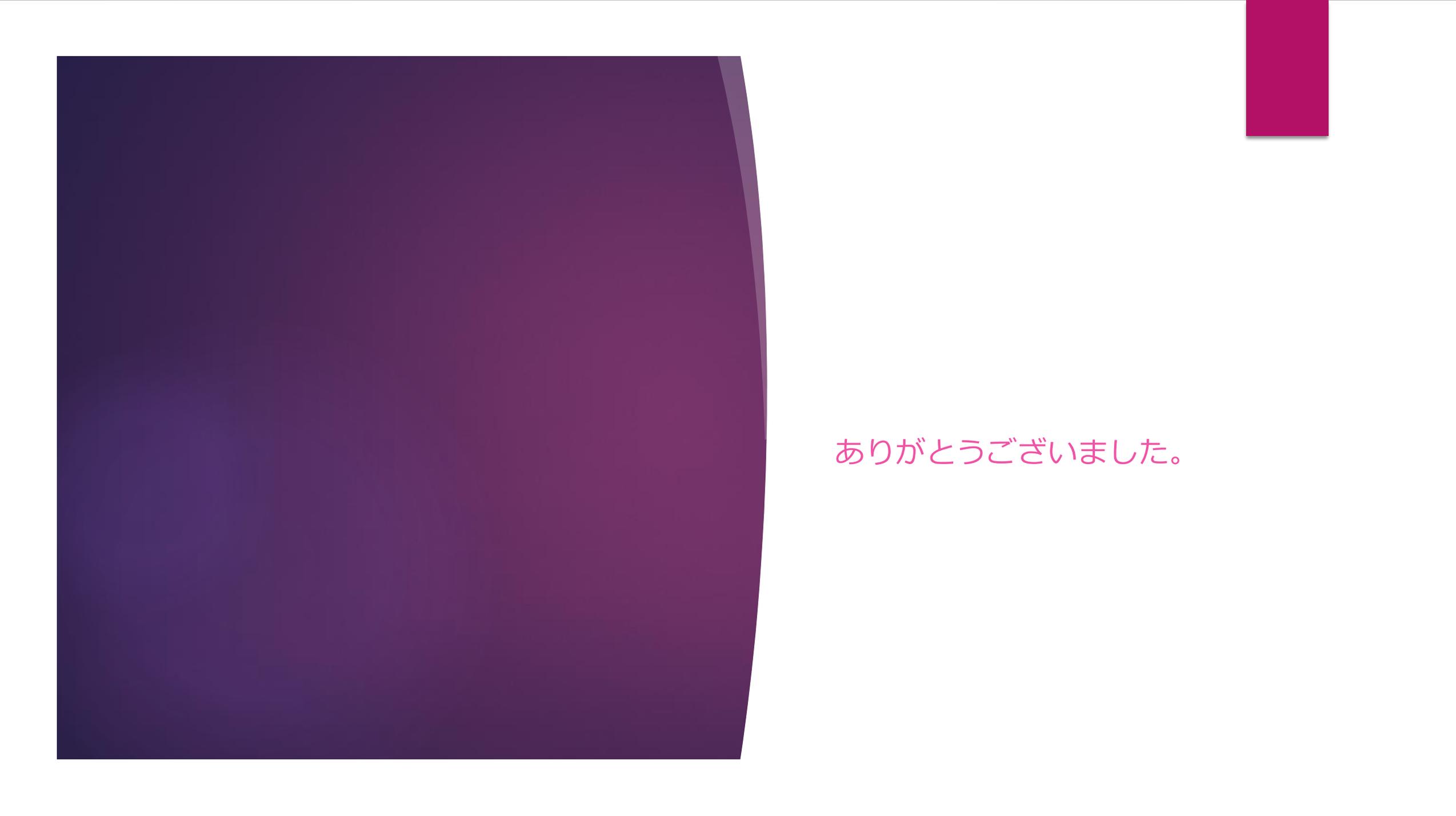


From Dr. Paul Kratoska (NUS Press)

- ▶ There is a question about whether departmental publications should continue in the future. Someone needs to edit and produce them, and that's a **thankless task**. They also cost money and rarely earn any money.
- ▶ Departmental publications have helped young scholars get started and publicized departments and universities. They contain valuable information, as do dissertations. These things are important, and **departments need to find new ways to handle them**.

現場の声（悩みや改革案）

- ▶ **せっかく投稿しても医学と名がつくために、他の大学図書館では医学に分類され、関係の人の目に届かない。**
大村 至. 2005. 「文理紀要から『順天堂医学』への変遷」 『順天堂医学』 51: 472-474.
- ▶ **サーバーに翻訳ソフトをかましておけば、外国人にも大いに読んでもらえ、サーキュレーションは格段に良くなるし検索の手間の大幅軽減に。**
山形積治. 2002. 「情報化と紀要改革」
『北海道生涯学習研究：北海道教育大学生涯学習教育研究センター紀要』 2：1
- ▶ **教員各自が自発的に FD を実施して、教育改善における PDCA サイクルを循環させる。**
その結果を紀要に公開してはどうか。
石井 建樹； 大澤 寛. 2017. 「紀要を利用した自発的なファカルティ・ディベロップメント」
『木更津工業高等専門学校紀要』 50：100－101
- ▶ **2014年査読導入、それにかかる諸課題をまとめ提言**
池田孝博他. 2020. 「福岡県立大学人間社会学部紀要の査読制度導入後の現状と諸課題」
『福岡県立大学人間社会学部紀要』 28(2): 123-131



ありがとうございました。